

チャレクジ

発行者 特定非営利活動法人 チャレンジド ステーション クジラ
196-0003 東京都昭島市松原町 3-6-7 アートヒルズ 105
法人:TEL/FAX042-542-7288 事業所:TEL/FAX042-569-6433
Email npo-kujira@9jira.com URL <http://www.9jira.com>



謹んで新年のお慶びを申し上げます
旧年中は一方ならぬお世話になり、厚く御礼申し上げます
新しい年が皆様にとって佳き年でありますようお願い申し上げます
本年も変わらぬご厚誼のほどお願い申し上げます

NO.38 2017.1

昨年は人災や天災、オリンピックに年末のノーベル賞受賞・・・明るいニュースと暗いニュースに一喜一憂した1年でした。さて今年は酉年。さて今年は酉年。古くから縁起が良く商売繁盛の動物とされていました。『一石二鳥』を狙って『二兎を追う者は一兎も得ず』にならないよう、日々、真面目に謙虚に仕事に向きあっていきたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。



念頭に思うこと……

総務省の調査によると、労働の担い手である生産年齢人口（15～64歳）は、1995年の8,726万人をピークに減少し、人口減少と少子高齢化（65歳以上の人口は2060年には総人口の39.9%）を背景に減少が続き、10年後の2025年には7,000万人、2060年には4,418万人にまで減ると見込まれています。日本の将来、心配になります。

一方、障害者の雇用に関しては、表1のように、精神障害者のハローワークへの新規登録数も就職数も年々増加しています。同様にクジラの年度途中の新規登録も精神障害の方が多い状況にあります。平成30年には雇用率の算定対象にもなります。

体調管理や仕事内容以外にも勤務時間や通勤時間、通院等の配慮を含めて、ご本人と面談しながら丁寧に就職活動を進めています。

昨年12月に厚生労働省より「障害者雇用状況の集計結果」が発表されました。（表2）

（表1） 障害者の職業紹介状況（平成27年度東京労働局抜粋）

新規求職者（人）					
	障害者計	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他
22年度	16,029	7,857	2,829	5,052	291
25年度	18,884	7,736	3,229	7,317	602
27年度	19,744	6,718	3,300	8,917	809
就職件数（件）					
	障害者計	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他
22年度	4,374	1,924	1,230	1,167	53
25年度	5,916	2,158	1,495	2,150	113
27年度	6,322	1,962	1,540	2,663	157

（表2）法定雇用率未達成企業数（抜粋）

区分（企業規模）	未達成企業数	0.5又は1人	1.5又は2人	0人企業数
50～100人未満	21,802	21,802 (100%)	_____	20,946
100～300人未満	16,576	6,986 (42.1%)	7,226 (43.6%)	5,945
300～500人未満	3,705	916 (24.7%)	934 (25.2%)	55
500～1000人未満	2,378	496	498	8
1000人以上	1,329	223	219	0

特例子会社（全国で448社）の設立も含め、雇用が進んでいる大企業と比べ、中小企業特に100人未満の企業では殆ど雇用されていない。今年は、市内の企業に障害者雇用の理解啓発を含めて連携を深めていきたいと考えています。

（センター長 市村たづ子）

リレーコラム

第33号

今回は、イトーヨーカドー昭島店
肌着担当マネージャーの松本達
子様にご寄稿頂きました。



イトーヨーカドーは安全・安心な商品・サービスを提供し、楽しくお買い物をしていただくことを目指す総合スーパーです。佐藤さんが入社された昭島店には障がいを持つ6名を含む、320名が和気あいあいと働いています。

私が肌着売場の責任者として昭島店に着任したのは佐藤さんが入社して3年半が経過した頃でした。その時の佐藤さんの業務は品出し・商品整理・清掃。どの仕事もきっちりこなす佐藤さんにはもっと他の仕事も任せられるのではないかと考え、売場のスタッフにそのことを伝えました。スタッフからの賛同も得たため、お買い上げ商品の袋詰めや駐車券の処理など、お客様と接する機会を増やしていきました。不安が全くなかったとは言えません。実際、イレギュラーな事態に直面した佐藤さんがお客様の気分を害してしまったこともありました。

そんな時に市村さんとの面談で「非日常を日常にするとよい」というヒントをいただきました。そしてそこから一気に佐藤さんの業務を拡大させていったのです。ギフト用の商品の包装や端末・パソコンを使用しての商品の値下げや棚卸などをスタッフが繰り返し教え、佐藤さんも何度も練習してできるようになりました。そして難関のレジ教育へ突入したのです。

障がいの有無にかかわらず、レジ教育は覚えることが多くて大変です。レジの性能が上がったため、今でこそ減りましたが、一昔前はレジ教育中に会社を辞めてしまう方もいたほどです。そうなのは佐藤さんが今までやってきたことが無駄になりますし、私としても困ります。そこで、レジ教育の責任者と打ち合わせをし、1つの単元を1回で終わらせず、3~5回繰り返し、本人が納得したうえで次の単元に進むことにしてもらいました。レジ業務はお客様がお店の印象を決める重要な場でもあることから、少しのミスも許されません。想定される質問やトラブルにも対処できるよう、特訓を重ねました。そうして売場へデビューした佐藤さんの姿は、今までの不安を一掃してくれるものでした。ここまで来ればもっといろいろなことができる、と確信できるよう成長を遂げたのです。佐藤さんに根気強く、繰り返し教え続けてくれたスタッフに感謝の言葉を伝えました。すると彼女たちは「佐藤さんのやる気が伝わってきたから続けられた。」と口にしたのです。失敗して注意されてもへこむことなく立ち向かう佐藤さんの姿、また、少しの時間も無駄にせず復習をする姿に彼女たちも支えられていたのです。

人は1人では生きてはいけないし成長できない。その当たり前のことを実感するとともに、もしかするといちばん育ててもらったのは私だったのかも、と思う1年でした。



★リレーコラムの読みどころ★

リレーコラムの企業様と利用者さんが、同じ会社の上司と社員という関係！
“レジ業務”のそれぞれに賭けた想いと努力の末に得たものを書いていただきました。





利用者の方から・・・

これまでの私・今の私・これからの私

佐藤美晴



私は、イトーヨーカドー昭島店に勤めて5年になります。
2階の肌着・靴下売り場でレジの仕事もしています。

東京都立青峰学園の2年生の時に飲食店やデパートで実習しましたが、スーパーで働きたいと思い、3年生になってイトーヨーカドーで実習しました。食品部門の仕事も経験しましたが、今の肌着売り場が自分に合っていると思いました。

就職したばかりの時は、お客さんと話をすることや質問されることが不安でしたが、だんだん声も出るようになり、接客もできるようになり電話も受けられるようになりました。

昨年、前のマネージャーから「レジをやってみたいか？」と聞かれた時は『頑張って挑戦してみよう』と思いましたが、なかなか実現しませんでした。

新しいマネージャーになり、「レジをやるよ」と言われた時は『やっとなでできる』と嬉しくなりました。1日30分から2時間、週3～4日、事務所で研修用のレジを使っの研修が始まりました。教材は難しくてよくわかりませんでしたが、研修担当の方がずっとそばにいてわかりやすく教えてくれました。スタッフさんも頑張れと応援してくれました。いきなり、マネージャーから「売り場でやろう」と言われた時は、できるか不安でしたが、マネージャーやスタッフがずっとそばにいて教えてくれました。お客さんが並ぶとあわててまちがってしまったこともありました。返品や電子マネーなど研修で習わなかったこともありました。品出し、接客、電話、レジと一つ一つ仕事を覚えることができて本当によかったです。これからもここで働いていきたいです。

趣味はカラオケで、一人カラオケも行きます。友人と出かけるのも好きで、高尾山・江の島・お台場にも行きました。今は、仕事も楽しくやりがいもあります。これから明るい感じの社員になることと30歳前に一人暮らしをすることが目標です。

恒例のクリスマス会

12月4日(日)に立川の
エルトレイン立川北口店で開催。

飲んで歌って、楽しい時間をみんな
で過ごし、1年間の労をおぎらいました。

また、今年も頑張ります！



加納正 障害者雇用の見聞録

聖地巡礼

昨年の今頃、2016 年をどう生きるか密かに決意をしたことは、「週 1 回のハイキング、映画 2 本、読書 2 冊、美術館巡りとクラシックコンサート各々年間 20 回程度とし、「この世界の片隅で、ひっそりと生きていたい」だった。そして、「加納正の障害者見聞録」は、連載終了予定だった。

映画は 60 本程度、読書は 80 冊程度の結果となったが、夏から、フリーランスで、「障害者問題」に関わり、嘱託相談員、特例子会社コンサルなどをさせていただき、今まで、障害者、企業、支える人々からいただいた知恵と力を、恩返しすべきと思い、社会との接点ができ、自分の存在と聖地を探さなければとの思いが…。関西での仕事の合間に、古都の京都、奈良の神社仏閣に参拝し荘厳な気持ちにはなるが……。自分の「障害者問題」の聖地は、どこだろうか…。

聖地とは宗教等において、重要な意味を持つ場所とされており、一説には、聖地は場所そのものを指す場合と物語としての聖地があると言う。近年は映画、小説、アニメ、著名人に縁の深い場所を聖地と称し、愛好家が訪れることを聖地巡礼とも言われている。映画「君の名は。」で「聖地巡礼」というフレーズが流行りとなった。前回は、私の師匠達の足跡、仕事の仕方を遡る旅でしたが、今号は聖地巡礼にお付き合いください。

障害者雇用の「不安感」と「負担感」の解消の聖地は……。

今日、^{こんにち}労働関係機関(ハローワーク、職業センター)以外の福祉施策でも、障害者の就労支援を行う機関は多くなってきている。東京都の教育委員会にいたっては、自らの障害者雇用率が未達成なのに、「特別支援学校の生徒 100%就職目指します」と公言している。食べ物屋さんでもニギニギしく「元祖」とか「本家」とか看板を掲げる。就労継続支援 A 型事業所の設置主体別の割合を見ると、平成 27 年度の事業所が 3,158 事業所中、営利法人の占める割合が 53.5%(平成 22 年 24.6%)となっている。何のための、誰のための障害者雇用の支援かと疑問に感じることも、「支援する人」の生活の糧だったり、支援学校の実績づくりであってはならない。

昨年 10 月に、財団法人「神奈川児童医療福祉財団」を設立し、長く理事長職にあった、飯田進氏が逝った。神奈川での葬儀に参列し、当時の思いが蘇る。彼は BC 級戦犯で、その後、反戦を訴え続け、テレビ、新聞等で大きく報道され、あらたな学生運動「^{シーアルズ}SEALDs」の中心となった、奥田愛基さんなど若い世代へ影響を与えた。

また、サリドマイド被害児の親としての活動や、神奈川での障害者支援の取組にも多大な影響を与えた。小生が名付け親で、副会長として立ち上げた「障害者雇用システム研究会」は、(財)神奈川児童医療福祉財団の理事長室で誕生したようなものであり、私にとって、聖地というより生地かもしれない。理事長室で飯田氏から「君は、偽名を使って詐欺を働いているらしいが、何者」とドスの効いた声で尋ねられ、思わず「役人の兄と私は、双子で、夢みるふたり」と言ってしまった。(海賊とよばれた男はいたが、詐欺師と呼ばれた男になるところだった)四半世紀も昔の話になる。

全国に先駆け、(財)神奈川児童医療福祉財団で実施されていた地域就労支援センターが、1991 年公的資金が投入され、川崎、横浜で始まった。これらの事業展開は、その後の障害者就業・生活支援センター、東京都の区市町村障害者就労支援センターのモデル的事業でもあった。1987 年、精神薄弱者の実雇用率への算定が開始、しかし、身体障害者を主対象とした障害者雇用とは、別の課題が表面化した。

知的障害者、精神障害者は「変化に対応することが困難な特徴と支えの必要性」が実践の中で指摘されていた。障害者の雇用に挑む「不安感と負担感」と、企業が障害者、とりわけ雇用率制参入の対象となる知的障害者、精神障害者の雇用について未経験であり、「不安感と負担感」の解消が課題となった。

その後、トライアル雇用、委託訓練制度などの政策化に繋がっていった。

特例子会社の聖地は…

過日、(株)西友サービスを訪問をさせていただいた。私が 25 年前、特例子会社設立支援を本格的コミットした特例子会社で、思い出と当時のエピソードに事欠かない。

途中、地方裁判所があり、自閉症の青年の「暴力事案」で、自閉症の特性(儀式)について裁判で、説明するが 裁判官に理解されず、有罪になった青年のことを思い出す場所が…。

(株)西友サービスは、1992 年(株)西友フーズの特例子会社として、知的障害者 5 名、身体障害者 5 名でスタート(当時の認定要件は障害者 10 名以上)した、現在は障害者 80 名以上になり、仕事也多岐に渡り、進化をしている。設立までのストーリーは、「特例子会社を創ろう」の冊子のモデルとして、初版が「障害者雇用システム研究会」から手作りで発行され、後に東京労働局で、改訂版として発行され、その後の特例子会社設立のテキストになった。

特例子会社とは一定の条件のもとで子会社と親会社の障害者雇用率を一体として見る制度で、1976 年頃より、第 3 セクター方式(企業、地方自治体が出資して障害者雇用のための新たな法人設立)の重度障害者雇用企業が設置され、重度障害者雇用対策として、障害者雇用を進めた。同時期、第 3 セクター方式による知的障害者向けの能力開発施設も発足している。

しかし、当時の重度障害者雇用企業は脊髄損傷の身体障害者を採用し、自治体が住宅、道路等の整備もするなど、手厚いものであったが、身体障害者が雇用の主対象であった。

さらに、ノーマライゼーションに反する等の批判もあった。いわば、働く環境の整備により障害者雇用の促進を図る仕組みであった。

1990 年代、雇用率達成の促進と障害者雇用の雇用管理の確立、知的障害者向けの仕事の切り出し等が課題となり、徐々に知的障害者を対象とした特例子会社が創られはじめ、平成 28 年 6 月 1 日現在、全国 448 社となり、雇用されている障害者の数は、26,980.5 人が働いている。雇用されている障害者は、身体障害者は 10,277.0 人、知的障害者は 13,815.0 人、精神障害者は 2,888.5 人である。しかし、企業によっては、法定雇用率達成したことで、障害者雇用の取組みが止まっている企業、親会社が障害者雇用に取り組まない企業もあり、今後、障害者のキャリア形成など雇用管理の在り方や、障害者のディーセントワークの点から見て行く必要がある。(文責 加納)

※文中の映画のタイトル名いくつか分かるかな。正解者に豪華景品プレゼント検討中

あとがき……………

★ 定着訪問で多くの企業を訪問させていただいています。この仕事を通して、幸せを感じるのは利用者が職場で活き活きと働いているのを見ることと素晴らしい方々に出会えた時です。そんな素敵な方を紹介します。

自分の考えや相手の目を見て話すことが苦手なAさんですが、優しく仕事も真面目に取り組んでいます。そんなAさんを特別支援学校の実習から担当していたB課長さんは、入社日からAさんと交換日記を開始しました。中味はやった仕事の内容や好きな野球のこと等、特に限定せず課長さんはただ、毎日、丁寧に返事を書き続けました。最初は2、3行で、課長さんの分量の方が多く、1ページを埋めるのに2～3日かかったのが、半年後にはA

さんの書く量が増え、1日1ページになりました。

ほぼ、1年ぶりに会った私の質問にも自分の言葉で話せるようになり、表情にも自信が表れ、次の目標まで語ってくれました。見守る課長さんにも笑顔があふれていました。職場のサポートで社会人として成長されたAさんと特性（苦手）を受け止め、成長のために努力されたB課長とスタッフの方々。

帰り際の課長さんの『お任せください』の言葉に身も心も暖かくなりました。（某老人ホームにて）

企業に合理的配慮の提供義務化から1年。特性や苦手は1人ひとり異なります。同時に職場環境も同じではありません。苦手や配慮事項を自分で伝えるのが苦手な人もいることでしょう。どんな配慮が必要なのか、どんな配慮ならできるのか、企業の皆様、どうぞ支援機関を活用してください。

★クジラは年度毎の登録更新制を取っています。これは、クジラと登録者の方で希望や支援の確認をするためです。支援機関として、適切な支援ができているか。毎年身の引き締まる思いでいます。（文責 市村）

ナイトサポートとホリデーサポートのお知らせ

就労をしている皆さまが会社の帰りや休日に気軽に相談できるように「ナイトサポートとホリデーサポート」を行っております。予約制ですので必ず電話で予約をしてからご来所下さい。（TEL 042-569-6433 まで）



ナイトサポート (17:15 ～ 21:00)	ホリデーサポート (10:00 ～ 16:00)
1月6日 金曜日	1月15日 日曜日
2月3日 金曜日	2月19日 日曜日
3月3日 金曜日	3月19日 日曜日
お花見を予定しています	
5月12日 金曜日	5月21日 日曜日
6月2日 金曜日	6月18日 日曜日

NPO 法人 チャレンジドステーションクジラ賛助会について

NPO 法人 チャレンジドステーションクジラ賛助会へ多数のご協力をいただきましてありがとうございます。今後も一層の努力をして参りますので宜しく願いいたします。
賛助会は随時受け付けております。

年会費	1口 2,000円
連絡先	042(542)7288
振込先	青梅信用金庫昭島支店
普通口座	店番 015 口座番号 0711599

特定非営利活動法人チャレンジドステーションクジラ 理事東條芳男